

資料

第6回分科会資料

2006年3月28日

議事次第

■ 分科会は合計2時間で行います

次第	時間	内容
1 開会	5分	①挨拶 ②出欠確認(出欠表の記入) ③前回の検討内容(議事録・整理表)の確認
2 検討の進め方	10分	①検討の進め方に関する説明 ②本日の目標確認
3 話し合い	90分	重点課題の抽出
4 とりまとめ	10分	
5 閉会	5分	①次回の内容 ②次回の日程 ③意見・質問 ④最終総括(会長)

■ 前回と今回で抽出した重点課題をそれぞれ5つ程度に絞り込みます

重点課題検討表

[illegible]

重点課題検討手順 出来上がりイメージ 教育分野の例

※この表は、参考事例であり、宇都宮市を分析したものではありません

内部資源分析			
SWOT分析 重点課題検討表		強み (Strength)	弱み (Weakness)
		教育活動に協力的な民間事業者の存在 一定の質・量が確保された教育施設 教育系NPOが育ってきている	外国語を話せる教員が少ない ITリテラシーを教えられる教員が少ない 総合学習などマニュアルのない授業に対応できない教員が多い
外部環境分析	機会 (Opportunities)	強みで機会を活かすための課題	弱みを強化して機会を逃さないための課題
	国際化の進展により、英語を中心とした外国語能力が求められる 自ら学び、自ら判断できるようになる教育が求められている 体験学習や総合学習ニーズの高まり 情報社会化によるIT教育ニーズの高まり	自ら学び、判断出来るようになるという教育ニーズに対して、民間事業者との連携によりディベートや意思決定・マネジメント等が学べる機会を提供する 体験学習・総合学習ニーズの高まりに対し、NPOと連携することによって幅広い実践的な教育サービスを提供する	英語教育需要の高まりに対して、教員の英語力向上をはかる ITリテラシー教育ニーズに対応するために、教員のITスキルを強化する
	脅威 (Threats)	強みで脅威を克服するための課題	弱みを強化して最悪の事態を招かないための課題
	英語による一般教科科目へのニーズの高まり 子どもの安全管理・確保 実用性の薄い教育への批判 少子化による児童・学生数の減少 家庭の教育力の低下	子どもの安全確保のために、NPOと協力して域内パトロールを行う 実用性の低い教育を回避するために、民間事業者と連携することにより、実践的な教育機会を提供する 児童の減少に対して、小中高の教員数や施設を徐々に縮小する 家庭の教育力低下に対応するために、NPO等と連携し、地域全体で教育する体制を築く	英語による一般科目教授需要に対応するために、英語圏から当該科目講師を招聘する

SWOT分析結果

強み

- ①45万都市に眠っている人材
- ②内陸型工業団地
- ③市民も行政もまじめで誠実
- ④災害が少ない都市
- ⑤自然が豊かかつ生活の利便性が高い

弱み(問題)

- ①45万都市の交通体系として不足
- ②まちが暗い
- ③システムの連携が悪い
- ④行政依存の強い市民
- ⑤魅力・個性がない

SWOT分析結果

機会

元気な高齢者が増加

- ◇元気な高齢者が増える
- ◇健康志向が高まり、体を動かすことの重要性が増す
- ◇高齢者の社会参加
- ◇リタイアする団塊世代のマンパワー
- ◇高齢者有効活用
- ◇高齢者の活動の場作り
- ◇超高齢化

市民活力の活性化

- ◇市民活動の活発化
- ◇女性の力がまちづくりに投入される
- ◇NPOの活動の普及(子供の安全、高齢者の安全)
- ◇ボランティア活動が今以上に活性化
- ◇よそ者の積極性を輸血して市民体質の改善
- ◇市街地にポイントとなる場所作り

協働の進展

- ◇市民協働の効果が出てくる
- ◇行政と市民と一体になる様に
- ◇行政サービスの意識が変化する
- ◇市政の情報開示
- ◇自己責任の時代

環境・景観への意識の高まり

- ◇景観や自然環境の良さがますます注目される
- ◇自然景観に恵まれた天災の少ない住み良い都市
- ◇使い捨ての意識が弱まっている
- ◇魅力ある環境都市

IT化

- ◇インターネット活用
- ◇情報のIT化がさらに進
- ◇個人情報保護の徹底した社会

交通の利便性が高まる

- ◇交通への配慮
- ◇自動車抑制の先進都市・環境都市化
- ◇低公害交通機関導入の先進都市へ

新産業が発展・連携していく

- ◇産業の発展
- ◇産学官の連携
- ◇モビリティ産業の外に燃料電池産業を積極誘導

脅威

自然環境の減少

- ◇身近な自然環境(里山、樹木など)が減少する
- ◇農地がますます減少する

教育環境の悪化

- ①親のレベル
- ②教員のレベル
- ③地域のレベル
- ◇子供は地域で守る
- ◇安心ある子育て
- ◇子育て環境等保育園の充実
- ◇人間としての教育
- ◇心を動かすことが今以上に必要
- ◇教育のやりもどし

市民間の連携がとりづらくなってくる

- ◇市民の意識二極化
- ◇ITに關しての二極化
- ◇政治に対する関心が弱まる
- ◇横のつながりがさらに必要な時代になる
- ◇世代間の意志不統一(孤立化)

財政の悪化

- ◇国民保険の経営悪化
- ◇年金問題
- ◇政府の予算管理の変化

ますます魅力がへっていく (特色がないため)

- ◇名物が作り出される
- ◇文化の香りのしない都市は敗者になる
- ◇魅力のないまち
- ◇特徴のないまち
- ◇魅力のない素通り都市

ゴーストタウン化

- ◇中心市街地のゴーストタウン化
- ◇都心部のゴーストタウン化
- ◇大規模店がますます増加する

犯罪の増加

- ◇犯罪の少ないまち
- ◇防犯で安全なまち
- ◇社会の不安定化

少子高齢化による人口減

- ◇特に市周辺部で小学校の統廃合が増える
- ◇労働力人口の減少
- ◇少子化が進
- ◇高齢化が進む
- ◇人口減
- ◇税収が減少する
- ◇産業力、生産力が減少する
- ◇高齢化社会への対応

交通弱者の増加

- ◇交通渋滞
- ◇高齢化により交通弱者が増える
- ◇高齢者への交通システム
- ◇LRTの導入は反対
- ◇車社会に高齢化の波が押し寄せる
- ◇自動車公害で市民・商店街共倒れ
- ◇車社会の弊害がさらに深刻に
- ◇車社会で生活でにくい人の増加

- ◇官と民の役割を整理しないと市民に負担が増える
- ◇合併への対応を迫られる
- ◇南北問題(世界の中で宇都宮の経済力を活かす)
- ◇東京都の競合
- ◇ペットの数が増大(ペット病院も)

重点課題検討結果

強み×機会

- ◇IT化を推進して一方通行でない双方向的意見提案システムを築き、情報公開の迅速化を図る
- ◇交通システム網の進展により交流人口を高める
- ◇自治基本条例を作る(市民本位の街づくりを保証する)
- ◇元気な高齢者を積極的に採用し、経験・技術を生かす機会を作る
- ◇高齢者の社会参加
- ◇介護予防政策で医療費削減
- ◇行政は高齢者を守る
- ◇既存の施設の積極的開放と多目的利用の促進
- ◇市民教育の充実
- ◇目覚まし講座の充実
- ◇市民活動のきっかけづくりの場の提供
- ◇行政サービスの提供に必要な専門知識を市民から得る
- ◇市民交流の広場づくり
- ◇市民、行政。能力を還元しあい、協働の機会を増やし互いに高めあう
- ◇協働意識の高まりにより市民活動を高める
- ◇行政サービスの担い手としての市民を採用
- ◇景観行政の充実(景観地区の指定、景観計画の策定)
- ◇宇都宮の景観をどのようなものとするか、一貫してアーバンデザインを実行できる体制を築く
- ◇市街地のビルの高さを規制して自然景観を活かす街づくり体制を築く
- ◇川が貫流する都市の良さを活かす
- ◇小さなビジネスの保育器(インキュベーター)をつくる

- ◇人・組織、連携システムづくり(マニュアル)
- ◇ゴミ等の循環システムを高め生活環境を良くしていく
- ◇箱物以外への投資
- ◇地域コミュニティより子供の育成安全を確保する
- ◇子供たちを中心とした街づくりを積極的に推進
- ◇財源難の克服
- ◇公募債の積極的活用
- ◇工業団地における団塊世代退職者を活用協力をうながす
- ◇団塊退職者の技術を継承し産業力を高める
- ◇企業を市民の交流を通して新風を吹き込む
- ◇産学官の連携を高め、地域産業を高める
- ◇防災士教育機関の設置
- ◇余力を防犯や人間関係づくりにむける
- ◇歴史を前に出す
- ◇観光資源のPRを客の誘導策
- ◇県に負けない魅力的なキャッチフレーズの創出
- ◇CO₂の嫌煙分煙で環境度up
- ◇もったいない運動の推進(食育の充実)

弱み×機会

- ◇平坦な土地を利用した自転車道の整備
- ◇市民意識の向上
- ◇市民参加のアイデアを市民に募る
- ◇行政と市民が危機感を共有するしかけを行う
- ◇行政以外の市民活動相談窓口を
- ◇分散型の市民生活支援システム(身近なところに福祉や子育て支援の場)
- ◇ケアマネジメントの宇都宮モデル(利用者の立場に立ち時には行政を闘うケアマネージャー)
- ◇市民が作る楽しい街
- ◇行政が施策の実施をめぐる市民協力を積極的に要請
- ◇明るい街づくりに。大通り沿いのビルは照明を
- ◇提案(もっと知らせる) 話す・伝える・お知らせする
- ◇交通事故死1位の本県の、原因究明と対策及び防止の実行
- ◇車を利用しないで生活できるまちづくり
- ◇MMの導入(市民協働のコミュニケーション)
- ◇公共交通を放射線状からネットワーク状に改善し、交通弱者への配慮を強める
- ◇交通政策にはビジョンが必要(時には採算性を度外視してもやらなければならない)
- ◇放射線状の交通網を結ぶ横軸の交通網整備
- ◇公害のないまちづくり
- ◇コミュニティビジネスの育成を行政の主導で(市民協力)

- ◇市民の誇りに結びつく施策(美しい街、大谷石、新交通システム)
- ◇ギョウザに絡めた宇都宮独自のキャラクターグッズの考案
- ◇特徴がない弱みを逆用して新しい特徴を皆で創り出し確立する
- ◇今あるものを生かす、のぼす、知らせる
- ◇行政が抱える難題を良い意味で市民に丸投げする
- ◇大学を魅力的にすることが街の魅力を押し上げる
- ◇市内における総合的学習の成果を行政が集約する
- ◇この際、はっきりと政令指定都市を目指す
- ◇自然エネルギーを用いた電力供給でまちを明るく
- ◇総合型地域スポーツクラブを世代間交流の拠点に
- ◇学び隊精神向上委員会(学びの活かし場)

強み×脅威

- ◇人材の活用(技術者・高学歴表)
- ◇人を活かす
- ◇市民中心のまちづくりでまちの魅力をつくる
- ◇市民活動の活発化
- ◇居住地との関わりのある教育(小・中)
- ◇小・中(高)の社会人教師増強
- ◇宮祭りイベントの改良
- ◇更なるボランティア活動の活性化
- ◇市民のボランティア・コーディネーターを育てて地区市民センターに配置
- ◇清原工業団地等へのアクセスをよくしないと宇都宮から出て行ってしまう
- ◇工業集積に対する交通対策が必要。環境の悪化
- ◇特徴あるまちづくりで人口増を(流入、子育て)
- ◇まじめ誠実であるゆえに
- ◇小中高大でボランティア参加をカリキュラム化宇都宮方式といわれるようなものを作りたい
- ◇都会と比べた場合の大学スペースの広さ→生涯学習等人々の憩いの場へ活用
- ◇自然公園の充実→自然の資源を生かした環境イベントの実施
- ◇小中学校施設における体育館・グラウンドの充実→体育館等のスポーツ活動機会の拡大を
- ◇高齢者・子供の体、健康づくりへの関心→総合型地域スポーツクラブの配置を
- ◇公民館・コミュニティ施設に対する住民の身近感→自主運営・自主管理のコミュニティ施設へ
- ◇環境都市を目指す(自然、災害)
- ◇児童公園など身近な施設に対する住民の愛着高い→住民による自主運営、自主管理に切り替える
- ◇ごみのないクリーンなまちづくり(シンガポールをモデルに)
- ◇起業支援強化段階の世代のビジネス戦士をソーシャル・ビジネスの担い手に
- ◇協働・市民参画条例化が求められている
- ◇行政の積極性が求められている
- ◇他に誇れる“宇都宮”モデルを協働で作る
- ◇人を呼び込む

- ◇団塊の世代が街づくりにかかわれる人口をひろげる
- ◇郊外ニュータウンの高齢化対策、大学との連携、寮、まちづくりへの参加実践的学習
- ◇都心に「市民の森」を持ってないか(JR東口など)都市の魅力の向上策
- ◇県内市町村の自然を守る。宇都宮市民ボランティア結成

弱み×脅威

市の出張所機能についての住民理解が不十分→出張所主体の積極的PR

◇郊外ニュータウンに取り残される交通弱者、新交通システムは必要で時には採算性を度外視してもよい

◇平地林の減少→植林スペースの場を設定

◇情報の積極的な提供、市民活動NPOなど

◇情報誌新聞の開発(町の顔)

◇市民に情報をわかりやすく伝達する工夫

◇市の「誇り」が埋没→市の誇り(ソフト、ハード)を発掘

◇終バスの時間を遅くする

◇まちが犯罪につながる

◇運転不可の視点

◇徒歩環境の構築

◇交通体系を整え、交通弱者を減らす

◇公共交通を充実させて蘇民のふれあいをうながす

◇歩いて買い物ができるまち(公共交通網の完備)

◇温暖化対策、農産品が変化

◇家庭菜園の増設

◇街が空洞化していく現状を検討の必要あり

◇中心地に高齢者が活動できる場所

◇新交通システムの導入により都心を歩いて楽しめる空間に改造→新しい都市の魅力に

◇強みを生かした宇都宮モデルの創出

◇若い人達が自由に発表できる場所

◇若者を中心に集める

◇地域コミュニティの強化

◇中心を店化しないで文化的中心地にする

◇歩行者天国を実現して近い将来に備える

◇中心市街地に子供や高齢者が集まる魅力なし→歩行者天国の実現を

◇市民不在の行政を勧めていくことが多い

自然環境を大切に考える

◇住民が市役所に依存しすぎる→一定の予算を地域住民の裁量で利用

◇市民が主体となってまちづくりをすすめる場作り

◇自然景観の宣伝活動の強化

◇全体的な交通体系の整備を要する。渋滞と弱者対策

◇市民の意識向上の寄与する学び。体験の場。予算を確保する

◇国際交流、姉妹都市を表現できる店

◇行政の協働への意識の向上がもたらされてる

◇市民の公共への関心・意識の向上が求められている

◇子育て環境の充実

◇犯罪防止策

◇魅力、個性の創出がないと交流人口も増加しない

◇魅力、個性がないと宇都宮に対する誇りが生まれない

◇市民、行政企業の協働ネットワークづくり

◇エリア、テーマ型懇談会を定例開催

◇教育の充実、道徳心

◇行政依存過ぎるのはダメ。地域での対策地域自治がめばえない

◇街灯の少なさ(夜間の暗さ)→デザインも含め住民アイディアの採用で設置

重点課題検討イメージ

	強み ①45万都市に眠っている人材 ②内陸型工業団地 ③市民も行政もまじめで誠実 ④災害が少ない都市 ⑤自然が豊かかつ生活の利便性が高い	弱み ①45万都市の交通体系として不足 ②まちが暗い ③システムの連携が悪い ④行政依存の強い市民 ⑤魅力・個性がない
機会 ●元気な高齢者が増加 ●市民活力の活性化 ●協働の進展 ●環境・景観への意識の高まり ●IT化 ●交通の利便性が高まる ●新産業が発展・連携していく	強みで機会を活かすための課題 ○	弱みを強化して機会を逃さないための課題 ○
脅威 ●自然環境の減少 ●教育環境の悪化 ●市民間の連携がとりづらくなってくる ●財政の悪化 ●ますます魅力がへっていく(特色がないため) ●ゴーストタウン化 ●犯罪の増加 ●少子高齢化による人口減 ●交通弱者の増加	強みで脅威を克服するための課題 ○	弱みを克服して最悪の事態を招かないための課題 ○